

WASEDA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION of JAPAN and TAIWAN

日台稲門会 会報 第9号



発行所：日台稲門会
神奈川県横浜市南区15-5(小野間)
TEL.FAX0467(83)2611
編集委員会
発行人：白鳥和夫
編集者：齋藤晃

日台稲門会

創立十周年を迎えて

日台稲門会 会長 白鳥和夫

(昭和三十七年法卒)

今年の日台稲門会が関東台湾稲門会の名称で創設されて以来十周年を迎えます。会員の年齢構成は高く、毎年多くの会員が入れ替わって行く中において、現在会員は八十名強を有し設立当初の会員数を大きく上回って十年の節目を迎えることが出来ました。

支えていただいた会員の皆様の熱意に対し、母校早稲田大学、台北駐日経済文化代表處、社團法人日本早稲田大學台灣校友會、台北稲門会のご支援に対し、また、多くの日台の交流を願う人々のご協力に対し心からお礼申し上げます。この会の創設者寺田勉さんの台湾に対する熱い思いは間違いなく引き継がれ、新たな思いを加えながら生き続けて行くことと思います。

同氏の関東台湾稲門会創設にいたる由縁については設立発起人として活躍され、現在も副会長として会運営にご指導頂いている井村晃也氏の会誕生にいたる経緯を記したメモを引用させて頂きます。「寺田勉氏は一九一一年台湾で医者として生まれ台中二中卒業後、早稲田第一高等学院を経て早稲田大学文学部を昭和十二年に卒業された台湾生まれの台湾育ち所謂「台生」の早稲田マンです。同氏は生まれ故郷、台湾、また、ヒューマニティに満ち溢れた温もりのある多くの台湾の人々に対する思いは甚だ熱く多少でも台湾の人々の善意に報いるには誠の心を尽くす事こそ肝要との一念から台湾に縁の有る同志を結集して「関東台湾稲門会」を結成したいと思立ち、以下略」と会結成の要因となった、台湾に対する熱い思いを特記してい

ますが、会報、ニュースレターに寄せられた会員の皆様の寄稿文から寺田先輩と同じ思いを抱いている人が如何に多いか、日台の絆の深さを痛感いたします。

小さな会ですが日本に居て台湾に熱い思いを抱く人たちの心の拠点として存続させていきたいと願っています。

新入会員特集

今号は特に新入会の方々にも寄稿をお願いしました。今後の当会での活躍を期待される頼もしい皆様です。

日台の絆、永遠に

宮本 孝(昭和四十七年政経卒)

私は台湾ファンの一人として、これまで三十年にわたり、延べ五十回以上の台湾通いをするものだ。

この間、日本の湾生(戦前の台湾生まれ、現在全国に約八万人)と台湾の日本語世代の皆さんからたくさんのご指導をいただき、おかげで十冊ほどの拙著を世に出すことができた。

最新作の『なぜ台湾はこんなに懐かしいのか』(展転社より)も文字通り、湾生と台湾の日本

語世代の今日に至る”心の交流”を書いたものだが、今回ははさずがに様子が違ってきた。というのも、拙宅に届く多くの反響の中で、これまでの同窓会を中心とする”日台友情の絆”が自らの高齢化(と死)によっていよいよ途切れようとする、その悲痛なまでの思いが日を追って増えているからだ。

実際、私の身近な所でも、台湾関係の同窓会、同郷会等が次々と解散していく中、湾生の遺志を継ぐ子や孫の代が台湾との新たな交流を模索し始めたり、同窓会組織そのものの永続化を台湾にある日本人学校の卒業生らに託そうとする例を多く聞く。

しかし、時の流れは無情なものであり、湾生の子や孫、ましてや最近の日本人学校卒業生らに組織だって台湾へのこだわりを求めるのはやや酷な気がする。むしろ私は、個々の湾生が生ある限り、台湾への思いの丈を存分に語り伝えていくことで、”日台親善永続化”の芽が着実に広がっていくことを信じたい。

日台稲門会に入会して

井上 浩(昭和六十二年法卒)

日台稲門会の皆様、こんにちは。昨年春に、台北稲門会の活動報告を寄稿させていただいた井上です。昨年六月、三年間の台湾での勤務生活を終え、日本に帰ってまいりました。そして、この度、小野間さんからもお誘い頂き、日台稲

門会に入会させて頂くこととなりました。今後ともよろしく願います。今回は、私の近況と台湾の思い出を交えながら、寄稿させて頂きます。

台湾生活は、振り返ってみれば本当にあつという間の三年間であり、その間、SARSなど恐い思いもありましたが、台湾を離れるのは実に辛いものでした。台北稲門会の皆様には、送別会をやっていたいただきながらも、帰国日が本来に来ないで欲しいとずっと願っていたものでした。

日台稲門会会報

とはいいながら、帰国して早八ヶ月が経ってしまいました。帰国したら、久々に早稲田のキャンパスを訪れたいとも思っていたのですが、すぐに大阪勤務となりましたので、残念ながら、まだ実現していません。しかし、私は、自他共に認める早稲田ラグビーの大ファンであり、十二月の早明定期戦、三十一年ぶりに二連覇を果たした大学選手権決勝(対関東学院、そして十八年ぶりに社会人トップリーグチームを破った日本選手権(対トヨタ戦)と、ULTIMATE CRUSH”のスローガンどおりの無敵の強さを誇った早稲田ラグビーの主な試合を見るために必ず上京し、自分自身も、アカ黒ジャージー”を身にまといて応援いたしました。特に二月十二日の日本選手権(対トヨタ戦)は、大接戦の末の劇的勝利であり、感動ものでした(この試合には、森前総理、白井総長のお姿も見かけました)。台湾とラグビーといえば、私の

平成18年4月1日(2006年)

台湾生活二年目の二〇〇三年十二月には森前総理をはじめ、奥島前総長、日比野弘先生、そして慶応ラグビー部の上田総監督などラグビー関係者の方々が、台湾が生んだ不世出の名ラグビー・故柯子彰氏(昭和八年度の早稲田ラグビー部主将)の墓参に来台され、早慶合同の歓迎会

が行われたことを思い出します。また、有志が集まり早稲田ラグビーの試合のビデオを見ながら、楽しく酒を飲んだこともありました。このまま書いてみると、ずっとラグビーの話が続けてしまいそうなので、この辺で話を変えましょう。

現在のところ、入会させて頂きながらも、日台稲門会の活動にはなかなか参加できず、また、台湾にもなかなか伺うことも出来ずに実に歯がゆい気持ちです。ただ、こうした中で、先日、台湾の方と接する貴重な機会がありました。

ご存知の方も多いと思いますが、台湾の日本における外交の窓口機関(実質的には大使館や領事館の役割)として、東京には台北駐日経済文化代表處(代表は早稲田OBでもある許世楷氏)があり、また、大阪にも同じ役割を果たしている台北駐大阪経済文化代表處があります。先日、台北駐日経済文化代表處の陳銘俊さんのご紹介により、呉嘉雄・台北駐大阪経済文化代表處長とお会いでき、台湾と関西の様々な交流について、いろいろお話を聞かせて頂きました。これからも、ずっと台湾と触れる機会を持ち続けて生きたいと考えています。

以上、とり止めもない話に終始いたしました。日台稲門会員として皆様とお会いできる日を楽しみにしております。また、台北稲門会の皆様。機会を見つけて、是非、台湾に行きたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願います。

我愛台湾

五十嵐 亨(昭和四十五年教育社会卒)

五十代もどんづまりにして新入会とはいささか面映い気もしますが、縁ありまして皆様の仲間に加えさせて頂いたこととなりました。

今から思いますと、台湾への意識を持ち始めたのは、学生時代に聞いた父の言葉からではなかったかと思えます。父は召集により兵隊として大陸へ派遣されたのですが、その時(戦争)のことは家族にも自ら語ろうとはしませんでした。ある時、どういうキツカケでそういう話になったかは忘れましたが、蒋介石という人は日本に好意的な人で、戦後賠償を一切求めなかった」というようなことを言いました。なぜか今でもその時のことは憶えています。

ご存知の方は多いと思いますが、それが敗戦の日本人に感動を与えた「以德報怨(徳を以って怨みを報ず)」という老子を引用した蒋介石の言葉を意味することを、後に知りました。

こんなことから、蒋介石「中華民國」台湾という図式で台湾への意識が自分の中に芽ばえたように思います。

最近の経験では、二〇〇二年六月に台北にて「ジャパン・カルチャー・ミーティング(JCM)台湾大会」を開催したことが印象的です。

JCMは私どもが事務局を担当する任意団体で、日本の伝統芸能や大衆芸能、音楽などあらゆる文化を海外に紹介して、現地の人々と交流をはかるという活動です。具体的には、舞台公演、施設訪問、交流パーティーなどを行ないます。台湾大会では日本から詩吟・剣舞・詩舞、コ

祝 早稲田大学校友会日台稲門会
会報第9号 発行

中華民國 台北駐日經濟文化代表處
代表 許 世 楷

東京都港区白金台5-20-2
電話03 (3280) 7811

ーラス、日本舞踊の団体やグループが参加したのですが、台湾側からも日本舞踊と太極拳の市民団体が出場し、素晴らしい舞台を見せてくれました。舞台の上での交流に加え、公演後のレセプションにも日台双方の出演者や関係者が参加し、交流を深めることができました。

台湾の若い人たちが、フアッションや音楽だけではなく、日本の伝統文化に対してむしろ日本人以上に関心を持ち学ぼうとしていることを感じ、感銘を受けました。

国際的に見て、日本がこれから米国、中国、アジアとの関係で重要な選択を迫られてゆく中で、台湾との相互理解、友好関係を今以上に深めることが真に大切であると認識する次第です。

土木技師八田與一と私

黒田正信（昭和四十九年理士土木卒）

みなさんは八田與一という土木技術者を存知でしょうか。

八田技師は戦前の台湾で水利灌漑事業に生涯をかけ、今でも命日には農民によりお祭りが行われている、台湾で最も敬愛される日本人の一人です。この事業は、当時荒地であった台南の

嘉南平野に水を供給するためのダムと用水路を建設し、穀倉地帯を創るプロジェクトです。東京都の水がめ狭山湖の七・五倍の水（一・五億ト）を貯める烏山頭（うざんとう）ダムや、日本最大の愛知用水の十三倍の長さの用水路（地球半周の一・六万km）などの設計・建設を、八田技師は三十二歳から四十四歳の若い時期に成し遂げました。そして昭和五年、東洋一の嘉南大（たいしゅう）用水路は完成し、台湾の耕地面積の六分の一、香川県ほどの大きさの穀倉地帯十五万haが生まれました。

八田技師が敬愛されているのは、独創的な建設工法や大型土木機械の導入などで難工事を克服したことだけでなく、平等に灌漑用水を配分する三年輪作給水法を考案したこと、また、従業員だけではなくその家族を大切にし、さらには台湾人と日本人を別け隔てることなく対等に遇したことにあります。百三十四人上る工事の犠牲者を悼む殉工碑には、台湾人と日本人が混じって刻まれているのもその一例です。また、関東大震災の影響で従業員を解雇せざるを得なかった時には、「優秀ではない者は再就職が難しい」との判断で、優秀な者から解雇し、そうでない者を残すという人間味あふれた決断をした点にあります。

これらの大局的な判断力と実行力、そして道徳観について、李登輝前総統は日本精神の現われとして高く評価し、日本の学生向けの講演のテーマにする予定でした。二〇〇二年十一月二十四日に行われる予定であった講演会は、ビザが発給されなかったため実現できませんでした。その予定原稿は幸いにして、同年十一月十日付産経新聞朝刊に全文掲載されています。（御希望の方は黒田まで。原稿を送付させていただきます。）

そして黒田ですが、私も土木技術者としてこの十五年、台湾のLNG受入基地、台湾新幹線などのプロジェクトに参画しています。八田技師は農地を潤す水を貯めるダムを設計しましたが、私も同じ年頃に、産業を潤すエネルギーであるLNG（液化天然ガス）を貯めるタンクを設計しました。とても八田先輩には及びませんが、「世のため、人のために尽くす」との気概は土木技術者として共有しており、私の誇りとするところですよ。

今後とも、台湾と日本の交流に尽くしたいと考えておりますので、先輩方の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。



「烏山頭ダムを見下ろす八田與一像」

<http://www.a-eda.net/asia/hatta1.html>

日本と台湾の懸け橋を目指す

石川台湾問題研究所

代表 石川 公弘（34年商研）

〒242-0029 大和市上草柳6-12-13
Tel 046-261-1838 Fax 046-208-2012
E-mail kim123@jcom.ne.jp

日本李登輝友の会神奈川県支部長
高座日台交流の会事務局長
早大日台稲門会幹事長

私の第二の故郷台湾

大嶋 武(昭和四十年一文国史卒)

私が初めて海外旅行をした国は台湾でした。今から約三十年程前のことです。

それも台湾旅行に行った近所の人から初めて聞いた話がきっかけでした。大変珍しい話であったので大いに興味をもち、日本からそんなに遠くなく、海外旅行には手頃な国だと思いつつ台湾に決めました。それまで旅行など行ったことがなく、まして海外など初めての事です。それも

も当時は団体旅行が主体で個人で行く事は珍しい事でしたが個人で出かけました。それまで英会話を少々学んでおり、学生時代には漢文を学んでいましたので、中国語も漢字であることからは見ればある程度わかると思ひ、又、しゃべれない場合でも筆談で話し合えばと、個人旅行でしたので台湾の人達も珍しがって、私に興味を示して寄ってくる人も大勢いました。その中で友達となった人もおります。団体旅行では味わえない個人旅行の楽しさを知り、それ以降台湾の魅力にとりつかれ度々台湾旅行をすることに なりました。台湾の事に関して本を購入し勉強もしました。その結果益々台湾が大好きになり私の第二の故郷と思っております。

平成18年4月1日(2006年)

日台稲門会会報

最初に台湾へ行った時大変おどろいたことはタクシーが日本のポンコツ車以下であったことでした。その後台湾に行くに従い自動車が良くなっていました。これは一例ですが台湾自体が経済の面で発展していくのが感じられました。日本で趣味程度で学んでいた中国語の勉強を友人達のいる台湾で本格的に勉強しようと思ひ、平成十六年三月から台湾国立師範大学語学中心へ留学しました。台湾在住は一年間ですがその

間台北稲門会に参加させていただき多くの早稲田の同窓生と知り合い、台湾の同窓生とも知り合えたのもすばらしい事と思っております。私の息子も現在師範大学で中国語の勉強をしています。台湾との縁は切れることなく続いております。現在は日台稲門会の会員として諸行事に参加させていただいており、日台交流の役に立てば良いと思っております。

縁に感謝します

桑山淑恵(昭和六十三年一文日本文学専修卒)

初めまして、去年入会した台湾出身の桑山淑恵(旧姓・楊)です。「早稲田学報」で「日台稲門会」の事を知り、入会を申し込みました。台湾を離れて二十四年になり、その間台湾の社会や生活事情等が大きく変わりました。特に政治の変遷で言論が自由になった事に驚きと安堵を覚えました。数年前ある日台式典の場で(台湾側の要望で)「中国語」ではなく、「台湾語」で同時通訳した事があり、生涯忘れられない出来事でした。小学校の頃、学校で台湾語を話す罰金を取られたのを思い出し、感無量でした。その時、堂々と「台湾人の主張」をしてもいいのだと実感しました。

日頃報道メディアを通して台湾情勢の動向、そして台湾という國の将来を見守りながら、自分が置かれた立場を踏まえて仕事に臨みます。通訳の仕事で多くの中国人に接していますが、政治的な立場の違いで対立してしまうような話

題を避けなければなりません。どの民族とも仲良く平和でいたいと思う一方、妥協できない部分に直面する時の心境は実に複雑で辛いものです。

自分が台湾人である事を強く意識する程、我が国「台湾」が愛しく思えます。初めて携帯を購入した時、メールアドレスは迷わず「I LOVE TAIWAN」と決めました。そして「128」の数字は私の早稲田大学の受験番号でした。今思えば日台稲門会と繋がるふさわしいメールアドレスではないかと些かの縁を感じます。

一色 徹さん台北ブログの案内

新ブログ

<http://blog.goo.ne.jp/kugenma36/>
台北の一色です。

私のつたないブログを日台稲門会のニュースレターで紹介いただきましたが、何本かのブログを最近一つにまとめました。なにかの折にでも新ブログアドレスをご紹介いただければと思います。

日本海事新聞

両海洋国家の平和と繁栄を願っています。

日本海事新聞 代表取締役・大山高明/昭43商卒

〒105-0004 東京都港区新橋5-19-2 新橋森ビル

TEL:03-3436-3222 FAX:03-3436-3273 ホームページ:<http://www.jmd.co.jp>

鼻煙壺の思い出

丸山弘子（平成十二年大学院
アジア太平洋研究科修了）

鼻煙壺（スナッフボトル）をご存知でしょうか。鼻煙壺(Nosejar)は嗅ぎタバコ（粉末にしたタバコの葉を吸い込み、その香りを楽しむ）入れ物のことです。ヨーロッパで流行していた嗅ぎタバコの習慣が十七世紀末に中国に伝わり、上流社会を中心に広まりました。湿気が多い中国では、タバコの葉を保存する為に、小さな葉瓶のような鼻煙壺が作られるようになりました。十九世紀後半から二十世紀の清代後期になると、素材やデザインが凝った鼻煙壺が作られ、その小さな芸術品はやがてヨーロッパに再び持ち込まれ貴族の間で愛されました。

私は禁煙家で、タバコに無縁ですが、一九九五五年に、台北の長春路にある洗練されたお店で、初めて鼻煙壺に出会い魅了されたのです。以来、インテリアとして鼻煙壺の大ファンになり、昨年二〇〇五年十一月まで、十年間に渡り何度となくその店を訪れました。

平成18年4月1日(2006年)

十年前に初めて入店した時、店主が私をまじまじと見て、「その服は三宅一生でしょう。台湾の女性にも人気があるよ。ぼくは日大の芸術で彼と同級だったの」と流暢な日本語で話されたので、びっくりしました。シノワズリでまとめられたインテリアの店内は、まさに中国風の芸術品が並べられ、そこに居るだけで心地よい空間でした。金魚や子供の形をした縁起物の可愛い鼻煙壺を愛するのが台北での楽しみになりました。買っ物の最中、隣のお店の女性が切った

りんごを皿に載せやって来て、食べるように勧められたこともありました。いかにも台湾らしい光景だと思います。

数年前、全く同じ鼻煙壺を鎌倉の小町通りのインテリアショップで偶然見つけました。なんと、値段は五倍に膨れ上がっていました。鎌倉でひとりぼっちの金魚の鼻煙壺は居心地が悪そうでした。

昨年十一月に台北を訪れた際に、店主から閉店することを告げられました。芸術品の売れ行きは不振との事。もうあの愛くるしい鼻煙壺を見られなくなると思うと、目に熱いものがこみ上げてきました。十年間で二十個の鼻煙壺を台北で買い求め、今、うちのリビングルームで愛嬌を振りまいています。



台湾校友会総会報告

岡 裕則（昭和六十一年文卒）

十一月二十六日（土）國賓大飯店にて二〇〇五年度台湾校友会総会が開催されました。日本からは、白井総長、瀬下交友会幹事、地域稲門会代表らが参加、日台稲門会からも白鳥会長始め幹事有志十一名が参加致しました。参加者名簿によると当日の参加者は総勢百四十三名。

はじめに謝会長より挨拶があり、「最近、若い学生はもっぱら勉強や研究に夢中だが、もともと部活動やスポーツ観戦、そして飲みニケーション等を通じて早稲田との絆を深め、交友の輪を広げることも重要。もともと校友会の活動にも積極的に参加して自分のため、社会のために当会を役立てていただきたい」と参加している若手会員に呼びかけられました。しかし最後には「自分は最近手術をしたばかりなので今日は飲みニケーションの方は勘弁してくださいね」とユーモアも付け加えていらつしやいました。続いて白井総長も謝会長のスピーチを受け、「学業のみならず、さまざまな機会を通じて広く人間関係を作り出すことが重要」と強調、「真の教育とは幅広い知識を身につけることである。」と述べられました。その後瀬下校友会理事、林台湾三田会代表、早大口元募金局局長、コウ国策顧問、永井教授、各地域稲門会代表からの挨拶が続き、北村台北稲門会会長の乾杯の音頭で晩餐会が始まった後は、お酒が進むと共にお決まりのように人と会話の行き交いが活発となり、本当にあつという間の数時間でした。

今回の総会で特徴的と思われたのが、二〇〇七年の創立百二十五周年に向けての募金への支援

リンカングループ

RINKAN GROUP

代表取締役 國方 隆

TEL046-274-5622 FAX046-276-4527

土木工事業 業務請負業 教育事業 警備事業 人材派遣業

~ CONSTRUCTION & OUTSOURCING ~

が強調されたことでしょうか。口元募金局長からのスピーチの中で、「今年には学生もラグビー、野球とスポーツ等で華々しい実績を残し頑張っている。我々OBも第二の建学ともいえる大事業の実現に向けて力を合わせて頑張りました。」と更なる寄付のお願いがありました。早稲田は百二十五周年で二〇〇億円の目標寄付金額を掲げており、聞くところによりますと八万円以上の寄付者は大隈講堂に名札が掲げられ、百二十五万になりますと講堂の椅子に名前が刻まれるそうです。台湾校友会の会員は既に百二十五万の寄付を決められている会員も複数いらっしゃるようで、総会当日も、徐重仁先生、陳維謙先生などが寄付に手を上げていらつしやいました。

さすが台湾校友会の方々、お金持ちでらつしやいますね。皆さんも金額の多寡は別に、母校のために一肌お脱ぎになってはいませんか？

自転車レースで日台交流
台北稲門会 山田 敦
(昭和五十九年政経卒)

台湾でアマチュアの自転車ロードレースに出ています。一日で一五〇キロ、二日で三〇〇キロを走るような長距離レースから標高三〇〇m以上まで上るヒルクライムレースまで昨年は八試合に出場しました。普段は陽明山一帯や淡水から金山、萬里にかけての北海岸で練習しています。意外にも台北周辺のロードバイク環境は最高です。

ロードレースはマラソンとよく似ています。元々の身体能力がそれほど高くなくても地道な練習で心肺機能や筋力を強化することで自分の走りをごんごんレベルアップできます。しかしレースで体力以上に重要なのが経験と戦術です。限られた体力を最も効率よくペース配分して長丁場をどう乗り切るか、自分をいかにコントロールできるかということに尽きます。この競技のあまりの面白さ、楽しさ、(苦しさ?)に魅せられて自分としてはこれまでにないほどまじめにトレーニングに打ち込んでいます。

自転車レースを始めて何より良かったのは新しい世界で友人が増えたこと。私の所属する天母コロンブスクラブには高校生から社会人まで二十数名のメンバーがいます。天母という土地柄からアメリカンスタイルの教員や外国人駐在員も数名参加しており国際色豊かです。毎週日曜日の練習会は一〇〇km前後の距離を走ります。厳しい上りあり、ペースも速くて苦しいですがここで若い選手と競うことが何よりのトレーニングです。四十五才の私が競技班の最年長ですが「年齢を言い訳にしないこと」がモツ

トーです。

また自転車、機材、人間を満載したバンで出かける遠征旅行の楽しさは格別です。民宿大部屋での雑魚寝、大勢で食べる食事、ミーティング、機材の整備、時に意見の対立やいさかい、レース前の緊張感、まるで子供のころに戻ったような気分です。日本人だから目立つのかレースを重ねることに他のクラブの選手からも声を掛けられるようになり仲間がどんどん増えていきます。大好きな自転車レースを通じての私流の日台交流です。

台北稲門会ホームページ
[http://www.waseda.org.tw/jp/CLM/CLM01](http://www.waseda.org.tw/jp/CLM/CLM01ナリーレース出場記三本を掲載中。)

日台稲門会活動報告

新年会報告

平成十八年最初の行事、新年会を一月二十五日(水)十七時三十分より「日本橋 稲ぎくきくもと」で開催した。今回は趣向を少し変え、第一部は台湾からの留学生 紀旭峰さんを講師に迎え、留学生生活、台湾人の日本留学に関する研究等を講演して頂いた。流暢な日本語と若々しい講演から戦前の台湾人留学生の苦労や

慶祝日台稲門会第9号会報発刊

台北 李登輝友の会

会長 蔡 焜 燦

台湾の自由と民主主義のために、頑張っています。



耳慣れない「土紳」という言葉の意味を知った
 有意義な一時間であった。
 講演会に引き続き十八時三十分より新年会を
 開催した。昨年の二回の行事は台湾料理を中心
 とした中華料理が続いたが、お正月でもあり今
 回は老舗「稲ぎく」のてんぷら料理を日本酒で
 楽しんだ。講師の紀さん、ボクシング部の徐、
 楊両君など三名の留学生を含め二十八名の会
 員、至友が参加した。白鳥会長の挨拶と乾杯の発
 声によりスタート、宴は一挙に佳境に入り各席
 で近況報告や稲門会活動、台湾状況など会話の
 輪が広がり、大いに盛り上がった。今年総会後
 の稲門交流の集いへのボニージャックス参加や
 ボクシング部両君のチャンピオン宣言なども飛
 び出し、あつと言期間の二時間だった。
 今年も春の交流の集いや夏と秋の諸行事を予
 定していますが、今年は特に留学生の参加を積
 極的に進め、楽しい企画の行事となるよう幹事
 一同頑張りますので、会員の皆様のご協力をお
 願いします。(事務局 小野間記)

台湾 ニューズ

李登輝前総統の来日が
健康上の理由で秋に延期!

李登輝・前総統(88)は、五月十日から約二
 週間の日程で希望していた日本訪問を、健康上
 の理由から今年秋に延期することを決めた。

李前総統は三月十九日から二十四日まで風邪
 などのため台北市内の病院に入院した際、過労
 に加え軽い肺炎の兆候があることが判明。医師
 から約三ヶ月間、安静にするよう求められたと
 いう。

李前総統は、日光(栃木県)も含めた仙台、
 松島(共に宮城県)、平泉(岩手県)など、学生
 のころから好きだった松尾芭蕉の「奥の細道」
 縁の地を訪ねるのを目的に約一週間の訪日を計
 画していた。

アンリー監督のアカデミー賞に歓喜

米映画界最高栄誉アカデミー賞で、カウボー
 イの同性愛をテーマにした問題作「ブロードバ
 ック・マウンテン」のメガホンを取ったアン・
 リー監督(61)が、アジア出身者として初めて
 の監督賞に輝いた

リー監督は過去三十年間の大半を米国で過
 しているものの台湾のことを忘れたことはなく、
 受賞後のスピーチでは「わたしは台湾、香港
 中国と結びついている。そのことを感謝したい」
 と話した。

また陳水扁総統は、「私たち各個人の中に「ブ
 ロードバック・マウンテン」がある。台湾、米
 国が共有する新しい世界への追求は我々に民主
 主義、自由、平和、そして繁栄といった普遍的
 な価値を導き出し、それを世界に証明できる心
 心から信じている。」と述べ、祝意を伝えた。

侯孝賢監督が、第二回「黒澤明賞」を受賞

独特の映像美で知られる台湾映画界の巨匠・
 侯孝賢監督が、第二回「黒澤明賞」を受賞した。

同賞は故・黒澤明監督の業績を長く後世に伝え、
 豊かな日本文化の再創造への象徴として昨年創
 設された国際賞。ヒューマンイズムに貫かれ、ま
 た豊かな娯楽性を併せ持つ作品を数多く撮り続
 けた監督や映画製作者など、世界の映画界に大
 きく貢献した映画人に授与されるもので、十月

二十九日、第十八回東京国際映画祭(TIFF)
 の公式記者会見が渋谷Bunkamuraで行
 われ、侯監督の受賞が発表された。

第一回は山田洋次監督とステイブ・スピ
 ルバーグ監督が受賞している。

郷土の誇り、王監督を絶賛 WBC報道

聯合晩報は野球のワールド・ベースボール・
 クラシック(WBC)で日本が優勝したニュー
 スを大きく伝え、王貞治監督の活躍ぶりを「郷
 土の誇り」として絶賛した。

同紙は王監督について「日本生まれだが、台
 湾籍を持ち、毎年のように台湾へゴルフに来る」
 と紹介。「初めて日本のナショナルチームを率い、
 初代世界一に導いた」と功績をたたえた。

大相撲 台湾巡業へモンゴル巡業も検討

日本相撲協会が八月に台湾で巡業を実施し、
 同じ時期にモンゴルでの巡業も検討しているこ
 とが明らかになった。台湾巡業は戦後初、モン
 ゴル巡業が実現すれば史上初となる

台湾巡業は台北で八月十九日と二十日に行う
 予定。北の湖理事長(元横綱北の湖)は「台湾
 は」ほぼ開催の方向で固まっている。体育館な
 ど設備もしっかりしているようだ。」と話した。

慶祝 日台稲門会第9号会報発刊

電線の最高接続法
 “エキゾウェルト”
 (テルミット溶接)

応用分野
 接地電線
 大電流母線
 レールボンド
 (JR東日本採用中)

集集電工業股 有限公司
 董事長 簡 燦 雲
 (昭和20年 理工学部電気卒)

台湾 台北市大安區師大路93巷18號1F
 TEL : 886-2-2364-2200
 FAX : 886-2-2364-2929
 統一編號 : 09411969

台湾一題

木村 滋 (エッセイスト
昭和二十七年法卒)

その一、小琉球 シャオリュウ

高雄の南西沖二〇kmに、小琉球と呼ぶ珊瑚礁でできた小島がある。周囲十二kmの島に三十四の寺や廟が点在し、海賊の隠家だったという洞窟もあって、何やら曰くありげな島だ。

琉球弧から五百kmも離れ、台湾本島の反対側の、殆んどバシー海峡に近い島が何故琉球なのか。

理由は十六世紀、広東、福建の支那人が貿易風につれて琉球を目指す時、航海途上、々台湾に寄港し、これを沖縄と区別して小琉球と呼び慣わしていた。

ポルトガル人は支那人船頭から聞いたまま、琉球をレキオ・マヨル、台湾をレキオ・メノルと云っていたが、台湾沖を通過する時の印象からイスラ・フォルモサ(美麗島)の名を併用していた。

それにしても、凡そ二四〇平方キロの琉球を大、その百倍の台湾を小と呼んだのは日本南方紐状の連鎖諸島を、富の蓄積を基にした地政学的認識から、そう名付けたものだろう。

明帝より琉球中山王が冊封を受け、十七世紀に明が滅ぶ頃には、琉球と台湾の版図は明確に区別されるようになり、小琉球は高雄沖の小島にその名を留めることとなった。

その二 台湾と北方領土
筆者は昨年八月の約二週間、政府派遣戦没者遺骨収集調査団十名の一人、(社)全国權太連盟理事としてサハリン調査に参加した。

北緯五〇度、旧國境付近の激戦地、ツンドラ地帯の調査は困難を極めたが、それ以上に今回厚生労働省が力を入れたのが樺太西海岸真岡町の調査である。

昭和二〇年八月、ソ連は日ソ中立條約を有効期限一年を残して一方的に破棄、満州樺太、千島に侵攻してきたのは記憶に新しいところである。

特に真岡港には、ポツダム宣言受諾五日後の八月二〇日早朝、激しい艦砲射撃の後上陸、停戦交渉の日本軍使が二度まで射殺されるに及んで、東海岸への避難民保護のため一度置いた銃、砲を手に立上ったのが歩兵二十五連隊であった。二十三日迄続いた熊笹峠の攻防で日本軍百五十名、ソ連軍四百八十名の戦死者を出した。スターリン

が南樺太公私資産の囲い込み、収奪を急いだ為に死ななくてもよい彼我の将兵達であった。

前置きが長くなったが、このように不法占拠した北方領土はソ連がサンフランシスコ平和條約の署名を拒否した結果、日本が主権を放棄して帰属未定のまま、ソ連・ロシアの実効支配が継続しているのである。

ロシアは常套手段としてヤルタ協定を提出すが、同協定は当時の連合國首脳間の戦後処理方針の覚書に過ぎず、参加していない日本を何等拘束するものではない。

台湾はどうか。サンフランシスコ平和條約で日本は澎湖島を含む台湾を放棄したが、帰属先は明記されていない。唯、GHQ・マッカーサーの「一般命令第一号」により中華民國國民軍が委託を受けて軍事占領したもので、以来、一度も中華人民共和國の実効支配を受けたことはない。一九七三年、日本政府は「台湾が中華人民共

和国の領土の不可分の一部であるとの立場を十分理解し、尊重する」と声明したが、だからと云って台湾は中国の一部だと認めている訳ではないのだ。

そして何よりも、李登輝総統登場以降、台湾は自由選挙により國の首長・議員を選び、独自の法体系を持ち、貨幣、軍隊を持つ民主主義国家として平穩公然と存在し続ける限り、国際法上の帰属未定問題は、何れその解を見出すに違いない。

これが台湾と北方領土、就中、史上一度もロシアの主権下にあつたことのない北方四島不法占拠との違いである。

TAIWAN
Touch Your Heart

台湾新八景へGO!

台湾観光協会

<http://taiwan.net.tw/>

台北稲門会

この度台北稲門会の北村会長が退任され、顧問に就任されました。後任には高橋新会長、併せて川田新副会長が就任されました。

<http://www.waseda.org.tw/jp/index.html>

社団法人日本早稲田大学台湾校友会

事務所(陳光敏)

台北市錦州街二一八号十一階

TEL 〇二(二五六三) 六六二二

FAX 〇二(二五六二) 五八二八

<http://www.waseda.org.tw/index.html>

日台稲門会ニュース

日台稲門会のホームページができました。白鳥会長の労作です。是非お気に入り登録してください。

<http://homepage2.nifty.com/nitai-tounon>

<http://www.waseda.org.tw/jp/index.html>

日台稲門会ニュース

台湾生まれの人、台湾の学校で学んだ人、駐在経験のある人、台湾に住んだことは無いけど台湾と何らかの縁のある人、個々人の背景は様々でも、台湾大好きで台湾との絆を大切に守って行きたい願う人々のあじまりです。校友が多数を占めていますが、校友であるなし、国籍の如何を問いません。政治の陰に影響される事なく、自由に楽しく日台友好の輪を広げていきませんか。

大好評 石川幹事長のブログ「台湾春秋」

<http://blogs.yahoo.co.jp/kimi123hino>

書評

酒井亨台湾したたかな隣人

集英社新書

二〇〇〇年に衝撃的な政権交代を齎した台湾の民主化は、「物分りのよい指導者」蔣経国と李登輝の「指導」による「上からの民主化」によるものではなく、「下からの民主化」の側面が強いように思える、と筆者は説く。その上で台湾政治の三つのキーワードを示している。

それはホーロー人、ハッカ(客家)人、原住民(先住民)、新住民(外省人)といった、異なった言語や文化をもつ(と自らが考えている)集団を意味する「群族」、自分を何者とみるかという「認同」(日本では「アイデンティティ」と訳されている概念)、そして「台独」(台湾獨立)。

台独という点、現在では中共との関係と見られているが、評者が台湾在住の頃(八〇年代後半から九〇年代初頭)はそうではなかった。その当時の民進党党首黄信介らはあくまでも国民党体制に対する抵抗活動を行っており、外省人独裁政権から台湾民衆による政体への転換を目指していた。

実際、八〇年代末期、急進独立派の雑誌「台湾新文化」では、独立すれば、中華人民共和国とは平和的な友好関係を結ぶといった、樂觀的かつ善意に満ちた中国観が表明されていたから(Chang, 2001)。

それが初の台湾人総統・李登輝の就任以降、中共の介入が露骨になってきた。笑い話ではあるが、李登輝総統(当時)の国語(国府でいう中国語)は相当訛っていて、普通語(中共でいう中国語)の中共は対話不可能になることを恐

れ、総統民選の時に武力介入をしたのではないかと噂された。実際は李総統の現実路線、実効支配領域の見直し(国府は台湾しか支配していないと宣言)や、国民党及び立法院委員の台湾領域内だけでの選挙の実施が、中共対国府から中国対台湾に変化することを嫌った(目にしたくない)というものであった。それまではお互い空想の領土の中で対立だったが、李登輝国民党の現実路線により夢は醒めてしまったという訳である。

事実、選挙をするには、まず選挙権者と領域の範囲を確定しないと行けない。中国がどう主張しようが、あるいは一部の外省人が空想的な大中国(中国大陆とモンゴルを含めてすべて中華民国)を想定しているようが、台湾だけで選挙を行なうことで、台湾にいる二三〇〇万人が国民として限定され、その国民だけが台湾の運命を決定できるという事実が確立される。(p177)

また中華民国・国民党政党支配については、しかし多くの庶民は、国民党の独裁体質を国民党に限定せず、中国共産党や中国全体に共通する病理だと見なした。それが正しい認識であったことは、五十九年のチベット侵略、八十九年の天安門事件、そして最近の中国のあり方で証明されている。(p174)

と、現在の中国共産党との蜜月時代到来を揶揄してみせる。引用ばかりで全く書評になっていないのだが、中共・国府に共通した話題をもう一つ。

台湾では地理は歴史、歴史は地理と二つ笑話がある。それは台湾で教えられてきた中国地理は中国共産党の行政区分など現状を認めず、国民党時代の古いものを教えていたから歴史なのであって、歴史は黄帝などの神話を史実として教え、大陸時代の国民党が「抗日」した

とか、蒋介石が聖人君人だったなどと、実態と異なることを教えているから「神話だ」といつのである。(p144)

何となくそうではないのかと考えていたことを、やっぱりそうだったか、と確信させる。同じ著者の、「哈日族 なぜ日本が好きなのか」光文社新書、「台湾海峡から見たニッポン」小学館文庫を併せて読まれることをお勧めする。

酒井 亨(さかい とおる)一九六六年石川県生まれ。早大政経学部政治学科卒。共同通信社本社経済部記者などを経て、二〇〇〇年からフリーとなり台湾在住。月刊誌で台湾を中心としたアジア問題について論述。著書に「台湾入門」白中出版、など。訳書に「台湾クローズド」李筱峯著、日中出版などがある。

昭和五十年商卒 齋藤 晃

台湾観光協会 東京事務所 より

観光旗幟計画の八大スポット

台湾をアジアの主要旅行先にししようと交通部観光局が推進しているのが「観光旗幟計画」。台湾の代表的な観光スポットと各地のイベントを主軸として、系統的に世界に向けてアピールしていく。この計画は全国一十五の県と市から観光スポットとイベントを選び、その中から八大スポットのTaipei 一〇一ビル、台北故宫博物院、高雄の愛河、阿里山、日月潭、タロコ、墾丁、玉山を選定。台湾が国際観光を推進するキャンペーンの主軸とする。

〒105-0003 東京都港区西新橋一・五・一八

TEL 〇三(三三〇一) 三三九九

FAX 〇三(三三〇一) 三三五六

<http://TAIWAN.net.tw/>

第一条(名称)

本会は日台稲門会と称する。

第二条(目的)

本会は会員相互の親睦を図り、早稲田大学の発展に協力し、あわせて台湾との交流を深めることを目的とする。

第三条(会員資格および会友資格)

1、会員は日本に居住する早稲田大学の校友または学生で多少でも台湾にゆかりのある者とする。

2、会友は本会活動目的に賛同する者で、会員の推薦により幹事会で決定する。

第四条(役員を選出)

本会は幹事会において以下の役員を選出し、次回総会において承認を受けることとする。

1、会長(一名)は幹事会の推薦を経て総会で選出する。

2、副会長(若千名)は幹事会の推薦を経て会長が委嘱する。

3、幹事(若千名)は幹事会の推薦を経て会長が委嘱する。

第五条(役員任期)

役員任期は二年とする。但し、再任を妨げない。

第六条(役員職務)

役員は次の会務を執行する。

1、本会の諸会合に関すること

2、会員名簿の整理並びに発行に関すること

3、その他の本会の目的達成に必要な行事の企画

4、会計監査

第七条(会長、副会長の職務)

会長は本会を代表し、本会の運営を統括する。

副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれに代わる。

第八条(役員会)

1、役員会(幹事会)は、会長、副会長、幹事をもちて構成し、必要に応じて会長が召集して本会の運営に必要な事項を協議、決定する。

2、本会則の改定を必要とする事項については、直近の総会において事後承認を求めなければならない。

第九条(総会)

本会は役員会の決定を経て毎年一回、会長の招集により定期総会を開催する。但し、会長が必要と認められた時は、役員会の議を経て臨時総会を開催することができる。定期、臨時総会において、会長は議長となり、決議は出席会員の過半数をもって成立する。

第十条(事務所)

本会の事務所は関東地区内の役員宅に置く。

第十一条(経費)

本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもって支払う。

第十二条(入会金および年会費)

本会の会費は次のとおりとする。

1、入会金は金一〇〇〇円とし、年会費は金五〇〇〇円とする。

2、年会費を継続して二年間未納の場合は、本会を退会したものと見なす。

第十三条(会計年度)

本会の会計年度は一月一日より十二月三十一日までとする。

第十四条(名誉会長、顧問)

名誉会長、顧問は会長が委嘱する。

第十五条(行則)

本会則は平成9年1月1日より施行する。

平成11年4月1日 一部改定

平成13年4月7日 一部改定

平成15年4月1日 一部改定

萬國專利商標事務所

当所は1972年に創立以来、企業団体、大学の学生団体に知的財産権についての教育と指導を続けると共に、特許・商標出願依頼人に対して、電子、電気、半導体、ビジネスモデル、ソフトウェア、化学、医薬品、バイオ、材料、機械、日用品等の各分野における発明・考案・意匠・商標の権利化を始め、知的財産関係の研究、相談など質の高いサービスを提供しております。皆様方の暖かいご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

所長・弁理士 陳 昭誠

台湾台北市博愛路80号6階

TEL: 886-2-2381-7099 (代表) FAX: 886-2-2331-7068・886-2-2389-1188

E-MAIL: service@iprlouis.com WEBSITE: www.iprlouis.com

メンバー:

日本知的財産協会 (Japan Intellectual Property Association, JIPA)

アジア弁理士協会 (Asian Patent Attorney Association, APAA)

国際商標協会 (International Trademark Association, INTA)

国際工業所有権保護協会 (International Association for the Protection of Industrial Property, AIPPI)

世界知的財産代理人連盟 (International Federation of Intellectual Property Attorneys, FICPI)

<p>早稲田大学校友会 日台稲門会 副会長 井村 晃也 東京都小金井市貫井南町五・二・二一 電話〇四二(三八四)二二六〇</p>	<p>株式会社武蔵野種田園 相談役 上野 晃司</p>	<p>大和證券SMBC 事業法人営業部 次長 岡 裕 則 東京都千代田区丸の内一 八一 電話〇三五五三三七九九 FAX〇三三二八〇二七四九</p>	<p>小野間 恒夫 神奈川県茅ヶ崎市南湖五 十五 五 電話FAX〇四六六七(八)三六一一</p>	<p>加藤 博 東京都小金井市貫井南町五 一四 一〇 電話〇四二(三八六)三九七三</p>	<p>JALインターナショナル東京支店 神田 正 治 電話〇三六六八(一)二四四五</p>
---	--	--	---	--	--

<p>社団法人全國樺太連盟理事 モセイスト 木村 滋 東京都世田谷区松原三 三九 一六 古河松原マンション九〇四 電話FAX〇三三(三三二)七六九四</p>	<p>早稲田大学 台湾研究所 〒103-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町五三二 早稲田大学研究開発センター 二一〇 一 号館 電話〇三五二七六(一)九二二内線三〇一〇 FAX〇三三(三〇八)八五三〇 xxxtian@affrc.tu.ac.jp</p>	<p>早稲田大学学商議員 横浜校友会顧問 関東白華親善協会理事 近藤 良三 郎 神奈川県横浜市港北区太尾町一四二三 五三〇 電話FAX〇四五(五四四)七五三六</p>	<p>日台稲門会 審判委員 齋 藤 晃 東京都新宿区新宿六 一二十五 十五 akatsuj@otmail.com</p>	<p>白鳥 和 夫 神奈川県茅ヶ崎市浜須賀十 五一 電話〇四六七(八)二六八八四</p>	<p>法政大学政治科学博士 日台稲門会 スエーデン ヲヴァシロク</p>
---	--	--	---	---	---

<p>田村 雅 司 昭三十八政経卒 東京都中野区若宮三 二 七 電話〇三三(三三八)七三六八</p>	<p>藤原運輸株式会社 輸出入物流 東京地区担当 西 宮 定 順 神奈川県鎌倉市西鎌倉一 二 十三 携帯〇八〇(三三八)七二五〇七 nshimiy2438@ifty.com</p>	<p>真鍋藤正 税理士事務所 高座日台交流の会副会長 日台稲門会監査役 真 鍋 藤 正 神奈川県大和市中中央五 十三 五 電話〇四六(六四四)二〇五〇</p>	<p>日台稲門会名誉会長 村 野 賢 哉 東京都大田区西蒲田二 十一 六 電話〇三三(七五)六二五七</p>	<p>華隆機軸工業有限公司 董事長 廖 朝 欽 廠址 台中市豊原市園環北路一段三五九號 電話〇四五(二)三三八八五</p>	<p>早稲田大学校友会 日台稲門会 渡 邊 光 治 千葉県市川市福栄四十七 七 電話〇四七(二九六)二一九六</p>
---	---	--	---	--	---

鈴木齒科クリニック

(原稿は8号と同じです)

お知らせ

女性画家 陳進さんの生誕100年記念展

台湾女性として初めて日本へ留学し美術を学び、画家として生涯創作を続けた陳進さんの生誕100年を記念し、「陳進展」が開催されます。台湾の女性画家 生誕100年記念「陳進展」日時:四月五日(水)・五月十四日(日)場所:渋谷区立松濤美術館 東京都渋谷区松濤一-14-14 電話 03-(三)四六五-九四二一

http://www.city.shibuya.tokyo.jp/est/museum/ 入館料:一般二百円、小中学生百円 女子美術大学同窓会 http://www.joshidosokai.net/library/ch_in_vol.html

エー・リンク株式会社 〒182-0002 東京都調布市仙川1丁目8-4 フェアリービル202号 TEL 03-5315-1020 FAX 03-5315-1023 http://www.alinkcorp.co.jp 代表取締役社長 小林 保雄 (S46年社学卒)

日本と中国、台湾を結ぶエレクトロニクス・エンジニアリングのソリューション・プロバイダー 台湾半導体製品、ディスプレイ関連製品及びIT関連製品の日本企業への紹介 半導体レイアウト設計のアウトソーシング 日本と中華圏を結ぶコンサルティング

編集後記

今年の日台稲門会創立十周年というところで改めて創刊以来の会報を拝読したが、まさに日台現代史の凝縮であった。戦前の日治期から引き揚げて日本での生活基盤を築かれるまでの湾生の苦勞、六十年代に始まる工業化時代の日本企業の経済活動、さらには早稲田に学ぶ留学生の皆さんの活躍に至るまで記事は尽きない。このサイトはいつか、台湾と日本、あるいは早稲田との紐帯が見えるように思える。

巷間上梓されているいわゆる「台湾本」は、民進黨と国民党(政権交替)、台湾と中国(台独)、日本対中国(安全保障)の視点から著されたものが多く、日本と台湾の関係を論じたものが少ない。国交断絶の裏話に偏重。当会としては、會員の体験に基づいた多様な記事を紹介することにより、より一層の日台交流を推進する編集方針を継続したい。

さて今号は新入会の方々に投稿をお願いしたが、台湾の情熱溢れるハフエイに富んだ内容でその熱気を纏めきれず、編集とはいいながらも単なる羅列で終わってしまった。次号はより慎重に誌面を整えねばと反省する編集子である。創刊第十号特別号はこれまでの歴史的経緯を踏まえ記念誌として発行する予定です。読者の皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

昭和五十年商卒 齋藤 晃

御祝 早稲田大学校友会日台稲門会 会報第九号 発刊

台湾

萬國法律事務所

FORMOSA TRANSNATIONAL

Attorney at Law

所長 陳傳岳

President John C. Chen

台湾台北市 106 仁愛路三段 136 号 15 階 15F, Lotus Bldg., 136 Jen Ai Rd., Sec. 3, Taipei 106, Taiwan Tel: 886-2-2708-9883 Fax: 886-2-2755-6486 E-mail: john.chen@taiwanlaw.com Website: www.taiwanlaw.com